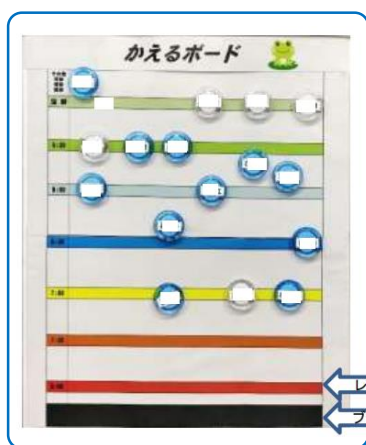


「帰宅時間」の自己申告ボードの設置

全道の各学校においては、校長の皆様方のリーダーシップの下、働き方改革の取組が着実に浸透し、教職員の勤務時間には改善の兆しが現れてきています。しかし、依然として長時間勤務をせざるを得ない状況は続いており、特定の教職員に業務が集中している傾向もみられます。また、「早く帰りたくても、先輩や同僚がまだ仕事をしていて帰りづらい！（同調圧力）」という声も聞かれます。あらかじめ、その日の帰宅時間を自己申告ボードに掲示し、業務のタイムマネジメントを行います。さらに、事前に同僚の帰宅時予定時間がわかっていれば、打合せなどもたてやすくなり、気兼ねなく帰りやすい職場環境をつくることができます。

退勤時刻の明確化～「かえるボード」の導入～



- タイムマネジメントを意識した働き方実現のため、出勤時に「かえるボード」の退勤予定時間にマグネットを貼ることによって、
 - ・自分の業務を計画的に進め、メリハリをつけた働き方の意識が向上
 - ・ワーク・ライフ・バランスの目標共有による声かけが促進
 - ・業務内容の理解促進により、お互いに助け合う職場風土が醸成
- 退勤予定時刻を、個人名のマグネットで掲示することで、終業時刻を意識した働き方に変容。
- 勤務時間終了時にはアラームを鳴らし、お互いに声かけ。
- 勤務時間を意識して業務に集中できるようになり、時間外勤務縮減。
(岡山県玉野市立中学校・静岡県浜松市立小学校など、)

出典：文科省、「学校における働き方改革～取組事例集～」(令和2年度)

一人ひとりのタイムマネジメント意識の向上

定時退勤日の設定

- メリハリある働き方に向けて、(リフレッシュデー、家族ふれ合いデー、頑張りすぎないデー、マイ充電日、スイスイ帰る日など)、ユニークな名前を付けながら定時退勤日を設定している学校が増えています。
- 退勤時刻が近づく校放送で音楽が流れ、職員が帰り支度をはじめ、今日残された業務をお互いに確認をします。
- 学校だよりの予定表にも「定時退勤日」を周知するなど、保護者の理解も得ながら取組を推進しています。
- 一斉に定時退勤日を設けるのではなく、個別に計画的な定時退勤日を設定して、連絡黒板に掲載している学校もあります。
- 教職員の誕生日を週予定に組み込み周知することで、バースデー定時退勤を促しています。

多忙感の解消

～「自由裁量の時間の創出」～

タイムマネジメントというと、どうしても仕事の効率化や削減による業務時間の圧縮に関心が行きがちですが、本来は、働きがい・成長感・幸福感に向かうものでなくてはなりません。

時間は、誰にでも平等にありますが、「自分で管理できる時間」をどの程度もっていますか？ここでいう「自分で管理できる」とは、他者に影響されないで自己判断で行える業務に従事している時間のことです。「自由裁量の時間」を自分で作り出すため、仕事の仕方を工夫し、やりたい仕事に時間をまわすことが多忙感の解消につながっていきます。

「～公立学校の校長先生のための～やさしい！勤務時間管理講座」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/hatarakikata/1414532.htm (文部科学省作成) YouTube 動画

